

トラック輸送情報（平成16年10月分）

平成17年 1月18日
国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課
担当：高橋、荒木 内線28315
直通：03-5253-8342
ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

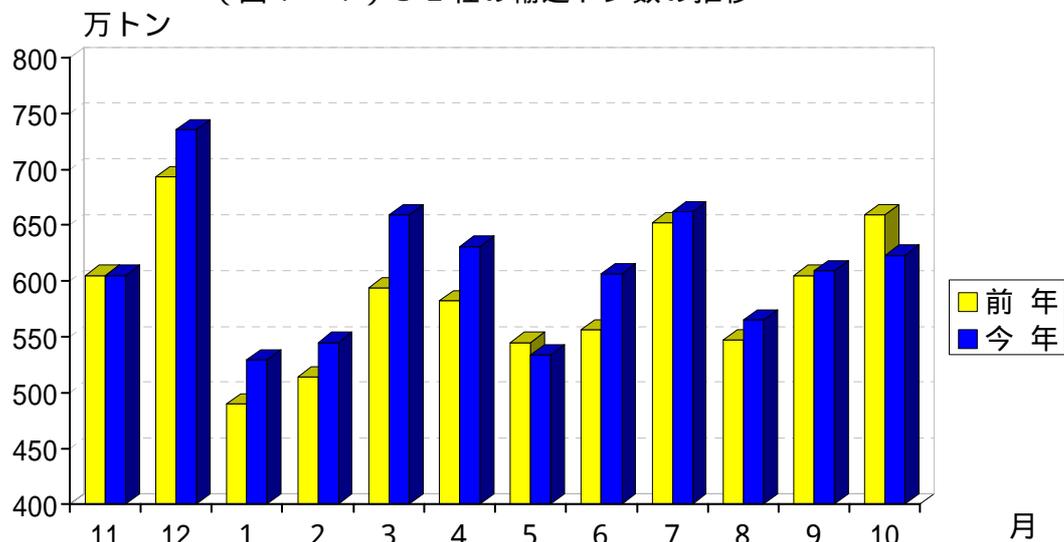
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,207,107トンで、前月と比べ、総輸送量が約12万トン増加したため、前月比102.0%（季節調整済み97.2%）、前年同月と比べると、約38万トン減少したため、前年同月比94.2%の実績であった。

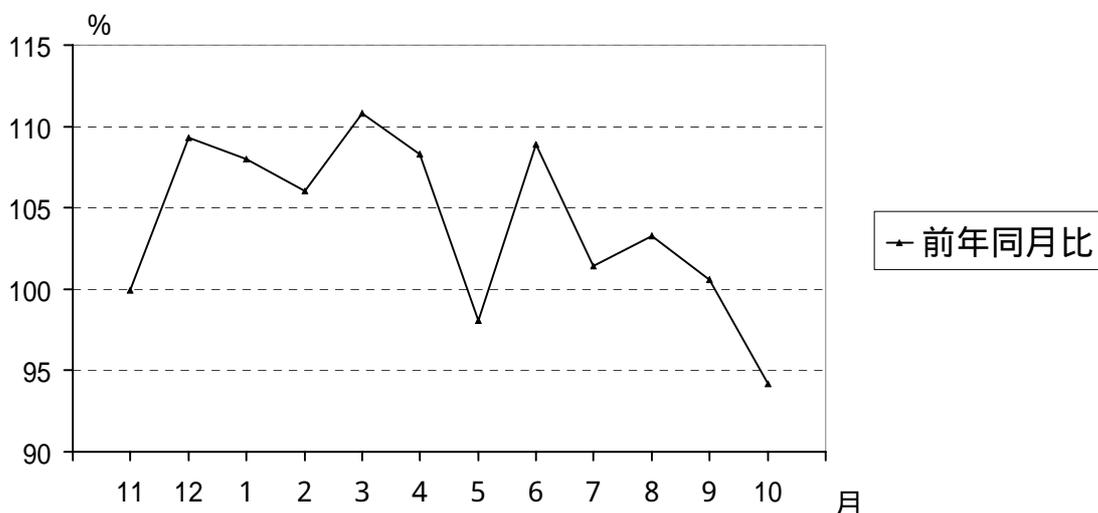
なお、平均稼働日数は、24.3日で、前月と比べ、0.6日の増加、前年同月と比べると、1.0日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、255,437トンで、前月と比べ、約1千トン減少したため、前月比99.5%、前年同月と比べると、約5千トン減少したため、前年同月比98.0%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



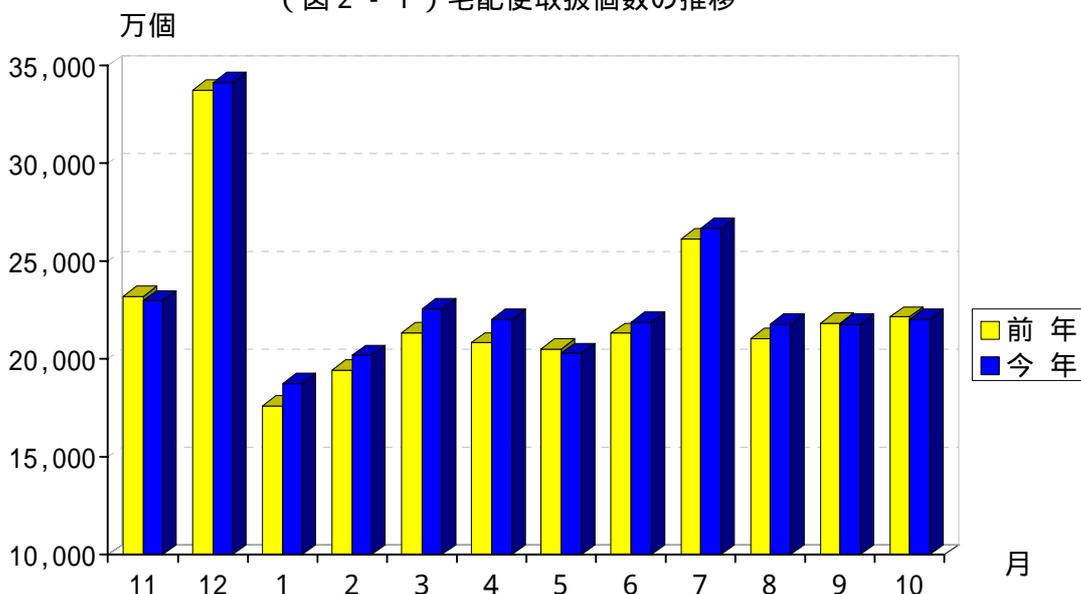
（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比



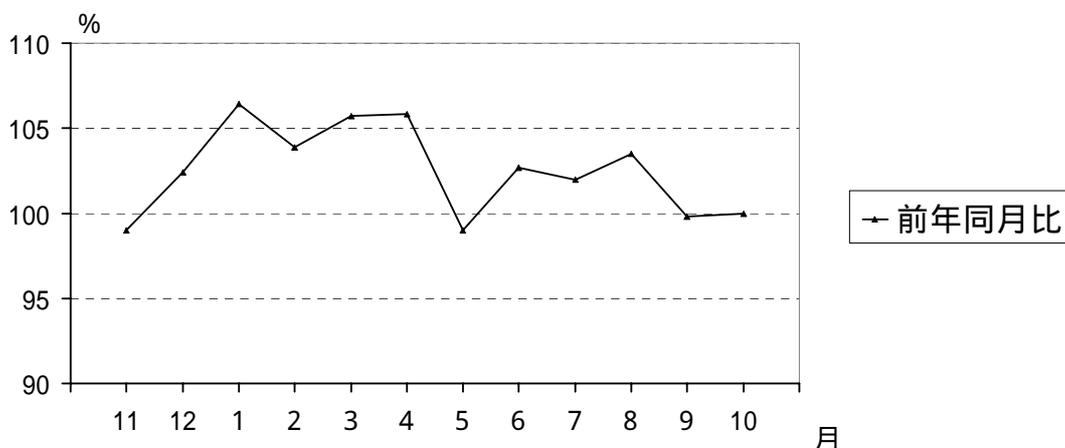
(2) 宅配便の概況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、221,591千個で、前月と比べ、約 354万個増加したため、前月比 101.6% (季節調整済み 99.3%)、前年同月と比べると、約 7万個増加したため、前年同月比 100.0%の実績であった。(図2 - 1、図2 - 2参照)

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、台風や地震の影響もわずかに見られたものの、稼働日数が増加したこともあり、全体的に輸送量の増加がみられた。理由としては、ほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物増を主な理由としている。また、金属製品、化学工業品ならびに食料工業品は新規荷主獲得による貨物増もみられた。農水産品は、先月に引き続き収穫期による貨物増があった。地域的には、農水産品以外の品目においては関東、近畿地区を中心に輸送の増加が見られ、農水産品は東北から関東方面への輸送が増加がみられ、中国で減少がみられた。

前年同月と比べると、稼働日数が減少していることにより、全体的に輸送量は減少している。また、地震の影響もわずかにみられた。理由としては、ほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物減を主な理由としている。地域的には農水産品以外の品目において関東、中部、近畿地区を中心に減少がみられ、農水産品は東北、中国、九州では減少がみられた。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因
	著増	増	変らず	著減			
前月 に 比 べ て	農水産品	4	12	1	野菜、果物	東北、関東	4, 10
					野菜	中国	4
	金属製品	5	19	2	建築用金属製品、その他の金属製品	北陸信越、関東、大阪、中国	1, 4, 8
					線材製品	北陸信越、中部	4, 7
	機械	2	23	1	その他の機械	愛知、近畿、中国、福岡	4, 5, 7
					機械部品	関東、中部、近畿	4
	化学工業品	7	18	3	その他の化学工業品、合成樹脂	神奈川、中部、大阪、兵庫、中国	1, 4, 7
					その他の化学工業品	関東、北陸信越、大阪、兵庫	4, 7
	繊維工業品	4	23	1	繊維、織物	関東、神奈川、北陸信越ほか	4, 8
					繊維	愛知、中部	4
	食料工業品	7	16	4	加工食品、その他の食料工業品	関東、北陸信越、中部、近畿、中国ほか	1, 4, 7
					飲料	関東	4, 7
	日用品	5	19	3	書籍、カタログ、その他の日用品	東京、神奈川、関東、中国、福岡、九州ほか	4, 5
						関東、全国	5, 7
その他	4	22	1	百貨店配送品、宅配貨物	東京、神奈川、関東、大阪、全国	2, 4, 5, 8	
				百貨店配送品	全国	7	
前年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	11	4	野菜、果物	東北、東京、神奈川、関東	10
					野菜、果物	東北、中国、福岡、九州	4
	金属製品	2	19	5	その他の金属製品	関東、北陸信越、中国	4
					その他の金属製品	北陸信越、中部、福岡	4
	機械	2	19	5			4
					機械部品、その他の機械、家電品	北陸信越、愛知、大阪、兵庫、近畿、福岡	4
	化学工業品	3	17	8	その他の化学工業品、樹脂	関東	4, 7
					その他の化学工業品	大阪、関東、中国ほか	4
	繊維工業品	2	21	4	繊維	関東	4
					繊維	愛知、中部、近畿、中国	4, 7
	食料工業品	1	18	7	加工食品、飲料	東京、神奈川、北陸信越、福岡、九州	4, 5
	日用品		20	6			
					書籍、衣服、その他の日用品	神奈川、関東、近畿、中国、九州、全国	4, 5, 9
その他		20	7				
				百貨店配送品、宅配貨物	神奈川、関東、全国	2, 7	

(注) 「主な増減地域」については、16地域 [全国、6大都市圏 (東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡) 及び地方運輸局 (6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県) 単位] である。

増減 要因	1. 新規荷主獲得 (荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増 (減)
	2. デパート・スーパーの貨物増 (減)	7. 倉庫から出る貨物増 (減)
	3. 他機関から貨物が来た (へ流れた)	8. 季節的需要増 (減)
	4. 工場・生産地からの貨物増 (減)	9. 景気の好況 (不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増 (減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 835社 / 調査対象事業者数 1,061社）の輸送量は、前年同月比 98.9%、前月比 103.6%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	98.9%	99.7%	100.3%	98.0%	95.1%	99.3%	101.0%	97.3%	96.6%	99.6%	102.0%
前月比	103.6%	106.9%	104.7%	98.3%	101.8%	101.1%	100.5%	104.6%	99.3%	107.1%	100.8%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、サイレージ（まぐさ）類の収穫期終了に伴い「動植物性飼・肥料」が減少したが、各種工事が追い込み期に入り「砂利・砂・石材」等の工事関連資材の輸送が引き続き増加し、また、精糖用ビート（てんさい）の収穫期を迎えたことによる「その他の農産品」の増加があったため、対前月比106.9%となった。一方、対前年同月比は99.7%とほぼ平年並みであった。今後の見通しは、建設土木関係工事の減少が予想され、下降傾向で推移するものと思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、先月に引き続き公共工事が増加して「砂利・砂・石材」等の土木関係資材が、農作物の収穫期により「穀物」「野菜・果物」が、宅配・引越などが増えたことによる「取り合せ品」の輸送量増加が見られた。このため、対前月比は104.7%、対前年同月比は100.3%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも横ばい傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、季節的需要により「その他の石油製品」「食料工業品」等の増加が見られたが、台風による大雨及び新潟県中越地震の影響による同方面への輸送に障害があったことから、対前月比は98.3%、対前年同月比は98.0%とともに減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、収穫期による農産関係品目や冬期に向かって、灯油などの「その他の石油製品」の増加が目立つ。新潟県中越地震による影響は、関東方面の輸送に影響を与えているが、代替（高速）道路が確保されていたため、大きな混乱にはならなかった。また、鉄道貨物もトラック便によるスムーズな代替輸送が確保できた。このため、対前月比は101.8%、対前年同月比は95.1%であった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は横ばい傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比は101.1%と増加したが、対前年同月比については新潟県中越地震や台風の影響により99.3%と減少した。品目別に見ると、工場等からの出荷の関係で、「その他の窯業品」の増加が見られ、「機械」は輸送減が見られた。「その他の石油製品」は原油価格が高騰したことによる需要減が見られた。今後の輸送見通しについては、大きな増減はみられない状況である。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、冬季に向けての「日用品（電気毛布等）」「その他の石油製品（灯油）」の輸送量が増加したことや、前月より引き続き台風の影響による「金属製品（ドア・シャッター等）」の輸送が目立っているが、垂平候に伴う出荷量の減少で「機械（電気機械）」や「その他の製造工業品（ゴム製品・革製品）」に減少が見られ、このため対前月比は100.5%となった。また、対前年同月比は101.0%とわずかに上昇した。今後の見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
中国	<p>本月の輸送は、台風の影響も少なく、輸送量は対前月比104.6%と上回った。ただし、「機械」「紙・パルプ」など、減少している品目もあった。「鉄鋼」「金属製品」「木材」の輸送量は増えているものの、前年に比べると増えてはいない。このため、対前年同月比は97.3%と減少している。今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
四国	<p>今月の輸送は、対前月比99.3%、対前年同月比96.6%の減少であった。「野菜・果物」は収穫期に伴う増加が見られるが、一部地域では台風の被害により減少している。また、気温の低下により飲料等の「食料工業品」の輸送も減少している。今後の輸送の見通しは、みかんの出荷や年末に向けての需要もあるが、横ばい傾向にある。</p>
九州	<p>本月の輸送は、多くの事業者が前月よりも増加したとの感触を得ている。このため、対前月比は107.1%となった。「穀物」「野菜・果物」は出荷時期等による輸送量増もあるが、一方で台風の影響で出荷量の減少も見られた。「食料工業品」は季節的な需要や焼酎輸送の増加等により、「日用品」は商社・問屋からの需要、景気等を要因とする輸送増が見られた。対前年同月比は99.6%とほぼ横ばいであった。今後の輸送の見通しは、次月はやや減少し、それ以降はやや増加する傾向である。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、季節的需要の影響で「その他の農産品（葉たばこ）」「日用品（年賀はがき）」が増加し、「水産品（マグロ）」「野菜・果物（ゴーヤー）」「取り合せ品（引越貨物）」の減少が見られた。また、建築工事による需要で「鉄鋼（建築鋼材）」が増加した。このため、対前月比では100.8%、対前年同月比では102.0%となった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が見込まれると予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	2	4	0	1	0	0	2	0	4	0	13
	減	1	2	0	1	0	0	1	0	0	0	5
2. 野菜・果物	増	2	5	1	1	0	0	0	2	8	0	19
	減	2	5	1	0	0	0	0	3	6	1	18
3. その他の農産品	増	12	0	1	1	0	0	0	0	1	1	16
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
4. 畜産品	増	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
5. 水産品	増	2	2	0	0	1	1	0	0	1	1	8
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	4
6. 木材	増	4	1	2	0	0	0	3	0	2	0	12
	減	2	0	0	0	1	0	1	1	1	0	6
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	9	5	0	2	0	0	2	1	3	0	22
	減	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7
11. 工業用非金属鉱物	増	0	0	0	0	1	1	2	0	1	0	5
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
12. 鉄鋼	増	0	0	0	2	0	1	2	1	2	1	9
	減	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3
13. 非鉄金属	増	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14. 金属製品	増	2	1	1	1	0	1	2	0	2	0	10
	減	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	5
15. 機械	増	1	0	3	0	1	0	0	1	3	0	9
	減	0	2	2	3	2	3	2	1	1	0	16
16. セメント	増	3	2	0	2	0	0	3	2	4	0	16
	減	2	1	0	0	1	1	1	1	0	0	7
17. その他の窯業品	増	4	0	0	4	2	1	2	0	3	0	16
	減	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4

品目	運輸局	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
	道	海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道	道	東	越	部	畿	国	国	州	縄	計
18. 揮 発 油	増	2	1	0	1	0	0	0	1	0	0	5
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
19. その他の石油製品	増	1	2	3	5	0	2	2	0	3	0	18
	減	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	4
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 化 学 薬 品	増	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	減	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0	4
22. 化 学 肥 料	増	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
23. その他の化学工業品	増	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
24. 紙 ・ パ ル プ	増	4	1	3	0	0	1	0	1	2	0	12
	減	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	4
25. 織 維 工 業 品	増	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26. 食 料 工 業 品	増	4	8	2	0	0	1	0	2	4	1	22
	減	1	4	0	1	0	2	0	5	0	0	13
27. 日 用 品	増	1	1	1	1	1	2	1	2	4	1	15
	減	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	5
28. その他の製造工業品	増	0	1	1	0	0	0	0	1	2	0	5
	減	0	1	0	0	0	2	2	0	2	0	7
29. 金 属 く ず	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
31. 動植物性飼・肥料	増	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
	減	3	0	1	0	0	0	1	0	1	0	6
32. 廃 棄 物	増	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	5
	減	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	3
33. 輸 送 用 容 器	増	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取 り 合 せ 品	増	1	3	0	1	0	0	0	1	2	0	8
	減	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	4
35. そ の 他	増	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1